

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991400041		
法人名	特定非営利活動法人 信貴山やすらぎ会		
事業所名	グループホームやすらぎ2		
所在地	奈良県生駒郡平群町菊美台1丁目206-11		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2991400041-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2991400041-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和4年11月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな高台に立地し、生駒山が一望でき、近隣には大型スーパーや平群町北公園があり日々の散策に活用させて頂いており、地域のボランティアサークルの方々の協力を頂き、コーラス・フラダンス・民謡の会・お茶会・手品歌声会等、様々な場面で交流を図っており、地域サークルならではの入居者様と面識がある方も居られ旧交を温めていただいたりし、楽しんでいただいています。四季折々の行事も積極的に開催し、入居者様に季節感を感じていただけるようしております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、同一敷地内の2つのユニットの1つで、近鉄生駒線東山駅すぐ近くの住宅地であり、近くにスーパーや診療所、公園があり、西に生駒山系が望める恵まれた環境にある。運営法人は居宅支援センター、訪問介護センターも運営している。コロナ禍前は地域との交流が盛んで、1日も早い終息が待たれる。利用者の尊厳を大切に、職員は家族同様の対応で、利用者の意思を尊重し残存能力を発揮してもらい、看取りまで暖かな支援を行っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の玄関に「理念」「運営方針」「介護規範」を提示しいつでも各職員並びに家族様が見る事が出来るようにしている	利用者の意思を尊重し残存応力を維持し、地域で楽しく安心して生活してもらえるサービス提供を唱っている理念、運営方針、介護規範がある。以前は朝礼時に唱和していたが、長年勤務の職員がほとんどとなり、事務所の掲示するだけで共有できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	平成26年8月に自治会加入済。コロナウィルス流行後交流活動は中止されている	自治会に加入しており、コロナ禍前は、カラオケ大会に参加したり、地域のボランティアが事業所でゲームや歌、踊りなどをしてくれたり、お茶の先生がお点前を披露してくれたりした。クリーンキャンペーンには職員が参加している。回覧板や広報は利用者の目に触れられるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ貢献はできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響で開催できないことが続いている	コロナウィルス感染予防のため、運営推進会議の開催を控えており、町の理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	平群町と連絡などを図り協力関係を築いています	困難事例の相談や事故報告、介護保険関係の手続き等を町介護保険課とやりとりしている。コロナ関連については、関係部署と密に情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に当てはまらないか職員一同で話し合い、身体拘束についての理解を深めている	重要事項説明書に身体拘束排除宣言をしている。現在、車いすから転落防止ベルト使用の方2名、ベットから転落防止4点柵使用の方1名の身体拘束事例がある。実施にあたり、家族に説明し同意書に署名捺印を頂いている。折に触れ、必要性の検討を行っているが、定期的とはなっていない。	緊急やむを得ず身体拘束をする場合は、「切迫性」「非代替性」「一時性」を三つの要件を検討すると共に、家族の同意書の更新や身体拘束適正化委員会の開催なども含め、身体拘束ゼロに向けて具体的な取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について冊子を作成いつでも閲覧できるようにしています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人制度を利用して入所しておられた方がおりその時の話などで研修しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で契約の際には良く説明をさせていただき理解・納得をしていただいています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が訪問時に意見要望書を訪ね運営に反映させています	面会時や必要品の持参時に、家族に意見や要望を聞いている。コロナ禍で面会自粛をお願いしているが、家族の意向を踏まえ窓越しでの面会、屋外での写真撮影をして頂いたりもしている。パットの使用数や大きさなどで、家族に理解を得られるよう丁寧に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は主任・管理者が吸い上げ要望に反映させています	日常的に職員同士で利用者のケア内容や工夫、勤務体制のことがよく話題となる。管理者に意見を上げ、業務日誌にも書き込んでいる。大切なことは、月1回の会議でも話し合っている。職員の提案で、利用者が使うスプーンをシリコン製に変えたり、遅出の出勤時間を早めた例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	手当などについて、時間外、有給休暇を取られている職員もいます。職員側からの備品などの要求についても管理者判断のもと購入しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が介護技術等の向上を目指し実践の中でサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスの影響で、他同業者との交流はできていない		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族様より意見を頂き、ご本人に安心して暮らして頂けるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族様とは綿密に話し合いを行い、より良いサービスを構築できるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様とさまざまな場面に応じたサービスの提供を話し合っています。現に訪問リハビリを利用されているご利用者様もおられます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が各ご利用者様に応じた時間を作り、共に作業をしたり昔の話をしたりしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ流行中は行事に家族様参加自粛いただいている。誕生日等個人行事は写真等送り連絡させていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ流行中は面会中止に理解いただいている。オムツ等消耗品持ってこられるときは職員を通じてお話をさせていただき、状況を伝えるようにしている	現在のコロナ禍での面会は、窓越しにできるようしている。家族からの電話を、取り次いでいる。携帯電話を所持し、ラインでやり取りしている方もいる。手紙や年賀状のやり取りを支援しており、イベントなどの写真を家族に送ることもある。利用者が故郷の話をして懐かしがる方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	テーブルを囲み皆様でお話しされたり、レクリエー ションをしたり、お話できるように支援しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談があれば対応しています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の暮らしの中で本人様との会話により希望や意 向について把握し検討しています	入居前に本人に会いに行き、希望や意向を聞き 取りしている。しかし、事業所作成の書面はな い。入居後は、日々の暮らしの中で、表情や会 話から意向の把握に努めている。	入居前、本人家族の意向を聞き取りしている が、書面に残されていない。病院や他介護事業 者からの情報はあがるが、職員が暮らし方の希 望や趣味趣向、生活歴などを聞き取り、アセス メント用紙などに記録する取り組みが望まれ る。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	今までの生活歴や習慣、環境等事前に家族様よりお 聞きしサービスに役立てています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	事前にお聞きした内容に沿って現状状態を把握す るよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	家族様との話し合いや主治医、各医療機関と連携し プランに反映できるよう努めています	家族の意向を踏まえ、かかりつけ医や管理者、 職員の意見を参考に、ケアマネジャーが介護計 画を作成している。定期的なモニタリングを3ヶ 月ごとに行って、半年ごとに介護計画を更新して いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様のケースにて心身の状態、食事、排せ つ等を把握し情報の共有を図り、介護サービスの変 更がある際は業務日誌と連絡ノートを活用してい ます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や家族様の状況変化には家族様の訪問時にお聞きし柔軟に対応させていただいています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに公園や大型スーパーなどがあり散歩や日々の買い物時にスタッフと共に利用させていただいていたが、コロナ流行に伴い外出自粛中である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に協力いただいている医療機関にて随時往診や受診をさせていただいています	内科医のかかりつけ医が、週2回は往診に来る。歯科医と歯科衛生士が、週1回訪問している。眼科医と皮膚科医が、月1回の訪問している。訪問リハビリを週1回受けている方もいる。看護師が、週3日勤務して利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員によるバイタル測定など、日々の健康管理にも目を配り、体調変化があれば主治医に相談、また往診に来ていただく、こちらから受診させていただくようにしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関もあり、検査、入院時にも紹介いただいています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における、家族様の意向を書面にて記載いただき、看取りケアにおけるマニュアルを作成し、職員・家族様にも説明できるように取り組んでいます	重度化対応・終末期ケア対応指針をつくり、看取り介護についての同意書も作成している。利用開始時に本人・家族に説明し、重度化したときに同意書を交わしている。この1年で2人の方を看取った。コロナ禍でも終末期になれば、面会可能にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	10月に西和消防署より署員に来て頂きAED研修を行う予定だったがコロナ発生により予定延期中である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、各職員に周知徹底を行っています。非常用の飲用水を備蓄しており、非常食料の購入検討中である	春と秋に火災を想定した避難訓練を行い、利用者も屋外に実際に避難を行っている。地震と風水害は手順書を確認している。緊急時の手順マニュアルや緊急連絡網を完備している。水と米は2・3日分あり、備蓄庫を建築中である。AEDも設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳を尊重し、親しみのある声掛けを実践しています	利用者の尊厳とプライバシーに配慮したケアを行っている。呼名は原則苗字に「さん」付けをし、馴れ馴れしくなく親しみがある言葉遣いをしている。希望者には同性介助を行い、トイレ誘導の声掛けはさりげなく行っている。オムツ交換は、主に居室で扉を閉めて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様がどうしたいのか傾聴し、本人の意に添うように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者様の生活リズムを大切に希望に沿ったサービスが出来るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自らの意思によりお化粧をしたりされる事に対して支援し、身だしなみに気を付けるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様にテーブルを拭いていただいたり、食器を洗っていただいたり、家族様差し入れなどを適宜提供させていただいています	ご飯は事業所で炊いているが、主菜副菜、汁物は給食業者が調理したものを温めて提供している。職員も同じものを食べ、利用者が食器洗いや下膳を手伝うなど、家庭的な雰囲気がある。誕生日はケーキを買ってきたり、イベント時は職員がちらし寿司を作ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態の悪いご利用者様にはミキサー食・刻み食にしたり飲み物にはトロミをつける等、または塩分制限のある利用者様にはお味噌汁を薄める、水分制限のある方には1回の提供水分量を減らす等し個々の状態に応じて提供させていただいています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしている。協力歯科に毎週歯科往診に来て頂き口腔内の状況、義歯の状態などを診てもらっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を記載し時間を把握しトイレ誘導を行う。トイレのサインを見逃さず誘導している	現在入居者8名の内、布パンツ使用者2名、リハビリパンツ使用者3名、オムツ使用者2名である。排泄チェック表をもとに、適切な誘導を心掛け、自立度向上を目指している。トイレは2か所あり、開口部が広く介護しやすい。夜間にはポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携し便秘等の服薬を支援し水分補給を促し便秘予防に努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主治医の意見を取り入れ、個々の意向に沿った日時に入浴して頂いています。	週2回、入浴できるよう支援している。入浴を拒否される方には、日や人を変え対応している。入浴時に歌を唄ったり、寛がれる方もいる。入浴剤は使わないが、足浴の時には使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意向に沿い、昼夜を問わず、休息していただけるようにしています。昼夜逆転にならないようにも支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各職員がいつでも閲覧できるようにし、変更時には業務日誌に記載し周知できるようにしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で洗濯物量み等を行っていただく。またレクリエーションにてカレンダーの色塗りや折り紙、カラオケ等楽しんでもらっています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行後、役所等に手続きに行く、病院に受診にいかれるなど、必要な時以外外出自粛に協力いただいている状況です	週1回は近隣の公園へでかけ、高台から生駒山系の景色を楽しんでおり、車いすの方も出かけている。日頃は、ウッドデッキに出て気分転換したり、洗濯物干しを手伝ってもらったりしている。コロナ禍で、戸外へ気軽に出かける機会が減り、利用者に季節感を感じてもらうため、紫陽花、菊や山茶花などを飾っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様や御本人より強い要望があれば金銭所持を考えますが、現時点では金銭を所持されている方はおられません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が電話をしたい時に自由にグループホームの電話を使用していただいています。また携帯電話を所有されておられるかたもおられます。知人や家族様からの郵便物は本人様に手渡し、手紙などを書かれる場合は支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室も広く温度管理には気を配り居心地よく過ごしていただけるように配慮しています。トイレ、浴室の床材を滑りにくいシートに張替えを行いました	明るい木目調の内装は木の香りが漂い、リビングには光が差し込み明るい。壁面には、利用者と職員で作った季節ごとの切り絵や貼り絵が飾られている。テーブルには、散歩で見つけた草花や、職員が持参した季節の花が飾られている。利用者の体格に合わせて、テーブルと椅子の高さをクッション等で調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士が心地よく過ごせるよう食事の際、席の配置を考慮したり、ソファでゆっくりと過ごせるように配慮しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば本人様のなじみのある家具を居室に持ち込んでいただいています。ご家族様の写真などを飾り、快く過ごしていただけるよう配慮しています	各居室のドアには、手作りのオーナメントが掛けられている。居室には、ベッド、大型タンス、エアコン、カーテンが設置されている。使い慣れた椅子やテーブル、ちゃぶ台等を持ち込み、家族の写真などを飾るなどして自分らしい居室づくりがなされている。職員が清掃を行い、利用者の動線を考え家具の配置を調整したりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設置し、車椅子での自走や歩行器でも安全なように配慮されており、個々の能力に応じた支援をしています		